

いわて生活協同組合

# 社会活動・環境活動報告書

2008年度版

- 食と農を守る産直運動・地産地消
- 「コープ手作り餃子中毒事件」をうけて
- 環境活動報告書

いわて生協の  
プロフィール  
(2008年3月20日現在)

本 部 / 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字土沢220-3  
電 話 019-687-1321(代表)  
FAX 019-687-1491  
<http://www.iwate.coop/>  
理 事 長 / 池田和昌  
創 立 / 1990年3月21日

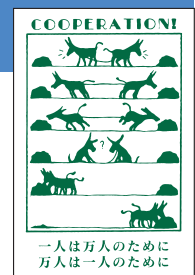
出 資 金 / 63億5,627万円  
供 給 高 / 362億5,787万円(2007年度実績)  
組 合 員 数 / 189,697人  
班 数 / 10,929班 (個配含まず)  
班 員 数 / 40,739人  
常 勤 者 数 / 1,934人 (アルバイト含む)

# Contents

ごあいさつ	2
地元の製造業者といっしょに商品開発・普及	3
岩手や日本の食と農を守る産直運動・地産地消	5
「コープ手作り餃子中毒事件」をうけて	9
いわて生協の運営	11
世界の子どもたちに笑顔と明るい未来を「ユニセフ活動」	13
地域に助け合いの輪を広げる「福祉活動」	14
くらし・平和を守る活動	15
子どもたちとママ&パパを応援「子育て支援活動」	17
自治体や地域の団体・住民とともにすすめる地域づくり	18
いわて生協の事業活動(1) 店舗・共同購入	19
いわて生協の事業活動(2) 共済・介護福祉・葬祭	21
いわて生協の機関運営とコンプライアンス経営	23
働きやすい職場をつくるために	24
いわて生協の環境方針	25
環境影響の把握	26
温暖化対策 2007年度の取り組み 2008年度に取り組むこと	27
レジ袋節約・マイバッグ持参の取り組み	29
事業からの排出ゼロをめざす取り組み	30
組合員によるリサイクル活動と環境効果 いわて生協の環境会計	31
環境に配慮した商品の普及	33
「森林の募金」、各部署の活動から	34
ISO14001:2004年版による環境マネジメント活動	35
環境活動の目的・目標の結果	36
いわて生協の環境活動のあゆみ	37
事業所一覧	38

## いわて生協のめざすもの

私たちはこれまで、一人ひとりでは小さい力でも、それを集めて協同することで、たくさんのくらしの願いを実現してきました。これからも、<ひと><地域><協同><食><環境><平和>の6つを大切に、ひとりでは実現できないくらしの願いや思いをみんなで話し合い、たくさん実現していくことをめざします。



### ひと

私たちは、「人と人とのつながり」を強め、「人間」がもっとも大切にされる社会をめざします。

### 食

私たちは、「安全・安心・健康な食生活」にこたえる運動・事業をさらに強め、食料自給率を高め、食の安全と農林漁業を守っていくことをめざします。

### 地域

私たちは、「だれでもが安心して暮らせる住みよい地域」と、伝統・文化などが大切にされ誇りを持って暮らせる地域をめざします。

### 環境

私たちは、環境にやさしくらしと事業をさらに強め、子どもたちに持続可能な地球環境を残すことをめざします。

### 協同

私たちは、多くの人や協同組合・団体のみならずとの協同の力を強め、ひとりでは実現できないくらしの願いや思いをみんなで話し合い、たくさん実現していくことをめざします。

### 平和

私たちは、未来を担う子どもたちといっしょに、くらしの基本である平和を守っていくことをめざします。



# 2008年度版 社会活動・環境報告書の 発行にあたって



いわて生活協同組合  
理事長 池田和昌

この1年間、組合員の暮らしといわて生協の事業・活動をめぐる状況は、大きく変化しました。

相次ぐ税・社会保障・医療の負担増と給付縮小の一方で、消えた年金問題や防衛費の水増し請求問題、道路特定財源のムダな使い方などが次々と明らかになり、「増税より先に、税金や保険料のムダ使いをなくすべき」との怒りの声があがっています。格差の拡大に加え、原油や穀物の高騰による食料・飼料・灯油などの値上げも、家計をはじめ地域の農林漁業や経済をさらに苦しめており、生産県である岩手に大きな打撃を与えています。

「よりよいくらし」の前提である平和も脅かされ、平和憲法を変え「戦争ができる国」にする準備が着実にすすめられています。平和の最後の砦である「平和憲法9条」を守ろうという動きが広まっており、いわて生協も県内の団体といっしょに粘り強く取り組んできました。

環境の分野では世界的に異常気象が問題になり、地球温暖化対策は将来の食糧問題ともからんで“まったなし”の状況で、企業の対策強化がいつそう求められています。いわて生協の1年間の環境活動の実績は本冊子の後半部分にまとめましたが、今後は事業体として可能な対策の実施をさらに強めるとともに、19万組合員のご家庭とも協力して地球温暖化防止の行動を広げてまいります。

また、産地や賞味期限の偽装などが相次ぎ、食の安全が大きく揺らいだ1年でした。生協でも「コープ牛肉コロッケ原料偽装問題」に続いて、「コープ手作り餃子中毒事件」が発生し、コープ商品や生協に対する信頼を大きく後退させてしまいました。食の安全、地産地消、食料自給率向上などの願いが強まる中、いわて生協がこれまですすめてきた、産直や地産地消、地場製品の育成、国産品優先の商品政策や取り組みをあらためて徹底して強化し、信頼回復のために役職員一丸となって取り組んでいるところでございます。

この「いわて生協社会活動・環境活動報告書」は、過去1年間のいわて生協の活動の到達点を、社会的責任の視点からまとめたものです。ぜひご一読の上、ご助言・ご批判をいただければ幸いに存じます。本冊子を通して、いわて生協の全体像についてご理解いただくとともに、食の安全、環境、よりよい地域社会をつくる活動の分野で、今後みなさまとの協同が強まることを願っております。

最後に、いっそうのご支援・ご鞭撻をお願い申し上げて、発行のごあいさつとさせていただきます。

## 組合員の願いを形にしたコープ商品

### いわて生協が地元メーカーと共同で開発



アイコープ商品・アイスタイル商品は、いわて生協が独自に開発している商品です。できるだけ岩手県産・国産の原料を使い、できるだけ岩手県内の工場で製造しており、地場産業・産品の育成にもつながっています。

2007年度、開発・改善したアイコープ商品・アイスタイル商品は18品目。1万3千人の組合員が開発や学習に参加しました。

### いわて生協開発商品の供給実績 (2007年度)

分類	供給高	開発商品供給高	開発商品構成比
農産(野菜)	25.3億円	0.2億円	0.6%
水産	45.2億円	2.0億円	4.5%
畜産	29.6億円	3.7億円	12.5%
日配	63.0億円	13.3億円	21.1%
食品・菓子	54.2億円	1.4億円	2.6%
米	7.5億円	4.3億円	57.4%
生活用品	14.2億円	1.5億円	1.1%
計	235.1億円	25.1億円	10.7%

※開発商品がない部門分類は記載していません。

※岩手県学校生協と秋田北生協の共同購入利用分も含まれています。

### コープのマークは安全・安心の印

コープ商品には現在6つのブランドがあります。いわて生協の開発商品、いわて生協も参加しているコープ東北サンネット事業連合の開発商品、全国の生協がいっしょに開発した商品があります。いずれも、「安全・安心なもの」という組合員の願いをもとに、原材料にこだわったり、独自の基準で食品添加物を制限するなどして開発しています。

開発・供給者	ブランドマーク	コンセプトなど
いわて生協	アイコープ	できるだけ岩手県産にこだわり、添加物や遺伝子組み換えなど、いわて生協の品質管理基準を満たした高品質の商品。
	アイスタイル	商品開発の基本的な考え方はアイコープと同じですが、より求めやすい価格を重視した商品。
コープ東北サンネット事業連合	サンネットコープ	東北の生協が一緒に開発した商品。
	バイオニアズセレクション	東北の生協が一緒に開発。産地・原料・製法などを吟味し、「混ぜもののない」「ごまかしのない」高品質の商品。
	コーププライス	東北の生協が一緒に開発した、求めやすい価格の商品。
日本生協連	コープ	生協の全国組織である日本生活協同組合連合会の開発商品。
	クオリティコープ	日本生活協同組合連合会の開発商品で、「おいしさ」「クオリティ(品質)」を重視したものだ。

### coop しめさば



北上コープの組合員が開発に参加。製造は太洋産業大船渡工場。大船渡に水揚げされた秋さばを使用。



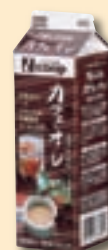
### coop ガナッシュケーキ



盛岡北コープの組合員が開発に参加。製造は風月堂(盛岡市)。産直さくら卵と産直牛乳(いずれも岩手県産)をスポンジに使用。



### coop カフェ・オ・レ



釜石コープの組合員が改善に参加。製造は湯田牛乳公社(西和賀町)。フェアトレードのブラジル産有機栽培コーヒー豆と、岩手県産の産直牛乳を使用。



## 商品に関する基準や検査で安全・安心を確保

### 独自の基準で添加物を排除

いわて生協では、組合員が摂取する食品添加物の量（種類・総量）を減らすために、次の3つを基本にしています。

- ①不要な添加物は使わない
- ②使う場合でも最低限の種類と量に限る
- ③安全性に問題があるものは使わない

そのため、日本生協連によるリスク評価をもとにした独自基準で114品目の食品添加物を規制し、商品の開発や取り扱いをおこなっています。

いわて生協開発商品の基準		
<b>不使用添加物</b> 安全性での問題が大きい ために一切使用しない  22品目	<b>留意使用添加物</b> 安全性での問題から、使用をできるだけ避け、使用する場合は必要最小限に抑える  37品目	<b>保留添加物</b> 安全性評価がまだ行われていないもので、大半が天然添加物。安全性評価が出るまで使用しない  55品目
一般メーカー商品の取り扱い基準		
<b>扱わない添加物</b>  20品目	<b>極力扱わない添加物</b>  12品目	<b>共同購入では扱わない添加物</b>  27品目

### 遺伝子組み換え原料をさけて

遺伝子組み換え食品への不安の声にこたえ、アイコープ商品とサンネットコープ商品の主原料、惣菜の主原料と揚げ油には遺伝子組み換えでないものを使用。県産や国産の作物は遺伝子組み換えの心配がないので、この点でも県産・国産原料の使用をすすめています。また、産直の畜産物の飼料も、できるかぎり遺伝子組み換えのものをさけています。

### 安心して選び・利用できる情報を

商品の表示は、消費者（組合員）が商品を選ぶ上で重要な情報であり、また製造者が消費者に商品特性を伝える手段の一つです。コープ商品は、「遺伝子組み換え」「製造年月日」など商品選択に役立つ表示を、国の基準を上回って充実させる努力をしています。

### 商品の品質の維持・向上のために

いわて生協が供給する商品の品質・衛生を確保するため、自主基準を設けて供給商品の細菌検査を品質管理室で実施。必要に応じてアイコープ商品の製造委託先や店舗に結果を報告し、作業改善に取り組みせました。2007年度は3,947検体を検査したほか、外部機関に委託して産直農産物の農薬検査なども実施しました。

アイコープ商品の製造委託工場の安全衛生点検は、2007年度は59工場で実施し、266項目の改善を要請。

供給した商品についての組合員からのお申し出（苦情・指摘）は、品質管理室にすべて集約されます。2007年度は、店舗・共同購入合わせて818件のお申し出があり、回答の要望があったものについては、すべてお答えしました。また、再発防止のための改善に生かされました。

#### <品質管理室での細菌検査のおもなもの>

- ①アイコープ商品の定期検査
- ②店舗生産の寿司・刺身・惣菜・カットフルーツ等の抜き取り検査
- ③フィッシュセンター・ミートセンター生産品の検査
- ④共同購入商品の抜き取り検査、および新規取り扱い商品の事前検査
- ⑤おせち・オードブル等季節商品の事前検査
- ⑥消費期限設定のための保存検査
- ⑦腐敗、異臭・異物混入などの申し出があった場合の原因究明のための検査



「アイコープさくら卵を使ったマヨネーズ」の初回製造時に立ち会い、工場点検も実施（2008年3月）。



## 「顔とくらしの見える」関係づくりを大切に



いわて生協の「産直」は、単なる産地直送ではなく、“顔とくらしの見える”関係づくりを大切にしています。「安全」「安心」な食べ物を求める組合員と、こだわりを持って食べ物をつくり、食べる人に喜んでもらえることをやりがいとする生産者が、交流しながらよりよい生産物をつくり、日本の農業と食料を守っていく運動として取り組んでいます。

### いわて生協の産直三原則

- ① 産地と生産者が明確であること
- ② 栽培、飼育方法が明確であること
- ③ 組合員と生産者が交流できること

### いわて生協 新産直基準

- ① 組合員の参加を強め、組合員の願いを商品づくりに反映させます。
- ② 「地産地消」の取り組みを強め、岩手の農林水産業を守り発展させることに貢献します。
- ③ 組合員と生産者が自立・平等の立場で、お互いに発展できることをめざします。
- ④ 産地、生産者、生産・流通方法を明確にし、情報公開をします。
- ⑤ 生産方法などを記録し、定期的に点検・検査を行います。
- ⑥ 後継者育成や、環境負荷低減（農薬の削減など）を支援します。



一関コープの「青空くらぶ」。産直生産者といっしょに、子どもたちが一年を通して野菜づくりなどの農業体験をして、交流しています。

## 産直交流に1,200人が参加

“顔とくらしの見える”関係を強めるために生産者と組合員の交流活動を企画し、多くの組合員が参加しています。2007年度は、以下の交流活動が取り込まれました。

企画名	開催地・回数	参加人数
産地交流会・産地見学	21回	のべ809人
生協牛乳ふるさと訪問	西和賀町・金ヶ崎町でそれぞれ1回	30家族114人
産直米交流会	八幡平市（西根）、北上市	のべ183人
牛乳ソムリエセミナー	西和賀町で2回	75人
地域まるごとゆったり体験	西和賀町で2回	のべ30人

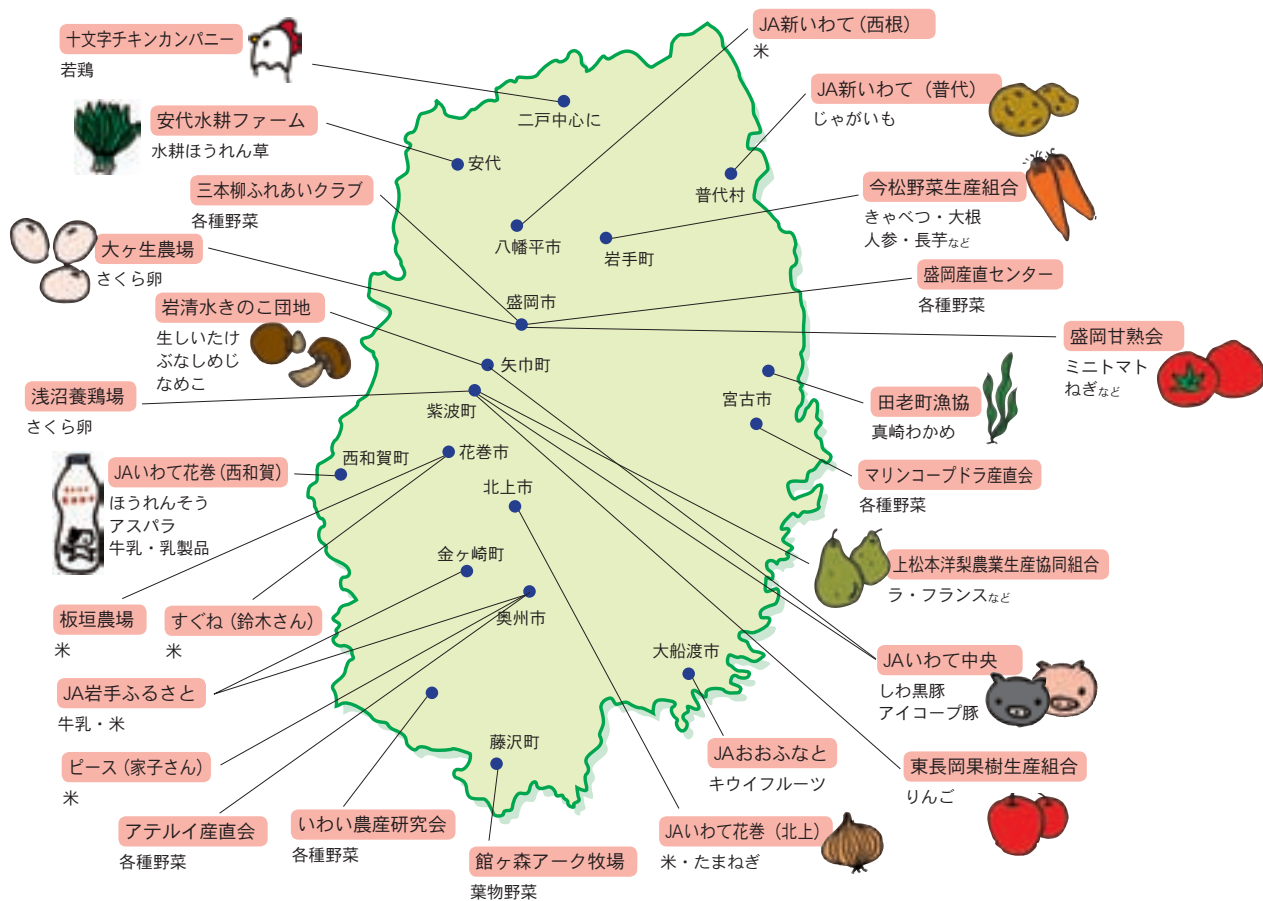


産直米の産地の八幡平市西根で米づくりを体験したり、生産者と交流する企画が、毎年取り組まれていきます。



岩手郡コープの組合員が産直りんごの産地、東長岡果樹生産組合（紫波町）へ。りんご狩りを楽しみながら、生産の苦労や努力にふれました。

## 県内のJA・生産者団体を中心に、26団体(33グループ)と提携



## はじめて店舗で実施した「産直収穫祭」は大好評

2007年度、はじめて店舗で年4回実施した「産直収穫祭」では、生産者直売や組合員によるおすすめもあり、利用を大きく広げました。2008年度も継続して取り組みます。

### 産直品の供給実績 (2007年度)

分類	供給高	産直品供給高	産直品構成比
①果物	12.1億円	1.8億円	15%
②野菜	23.0億円	8.0億円	35%
農産(①+②)	35.1億円	9.8億円	28%
③水産	39.5億円	0.3億円	0.8%
④畜産	25.9億円	6.9億円	27%
⑤日配	59.9億円	10.9億円	18%
⑥米	5.2億円	2.6億円	51%
① ⑥合計	165.6億円	30.5億円	18%
食品合計	242.6億円	30.5億円	12%
総供給高	362.6億円	30.5億円	8%



産直収穫祭では、組合員によるおすすめも。産直きのこは、芋の子汁で試食おすすめしました。産直収穫祭での生産者直売は、組合員さんとの交流にもなり、好評でした。

## 産直品の品質向上をめざす取り組み

### 「公開安全確認会」「産直業務確認会」で安全・安心を確認

組合員と生協常勤者、生産者の3者が産直提携産地で「栽培」「飼育」「生産」「流通」に関する約束事が守られているかを確認・監査する「公開安全確認会」を2003年度から毎年実施しています。また、いわて生協の店舗や共同購入で産直商品がどのように「入荷」「加工」「保管」「供給」されているかを確認する「産直業務確認会」も、2004年度から毎年実施しています。

2007年度は、2つの確認会にのべ243人の組合員が参加。これまでの合計では、のべ1,000人を超える組合員が参加し、思いを交流することでさらに信頼を強めています。

また2007年度は、産直品の品質向上をめざし、日本生協連「青果物品質保証システム 適正農業規範（GAP）」についても、生産者といっしょに取り組みました。



真崎わかめの公開安全確認会。わかめの加工の現場を、組合員が確認してきました。



米の産直業務確認会。店舗の売り場で掲示物や、生協職員が産直米のよさを知っているかなどを確認。

### 産直野菜は「農薬使用基準」を遵守

2001年、いわて生協産直野菜の提携先の中から6団体でプロジェクトをつくり、日本生協連の農薬毒性評価をもとに、生産現場での実態も考慮し、農薬使用基準を定めました。これは、1年ごとに点検し、必要に応じて見直すものです。

2007年度は、42検体で残留農薬検査を実施し、産直野菜からの排除農薬・排除目標農薬の検出はありませんでした。

生産管理についての科学的検証により、生産者の自信にもつながっています。

排除農薬	使用禁止する 14農薬	NAC、ベンゾエピン、ジメトエート、2,4PA、ジネブ、MEP、マンネブ、DEP、EPN、ジラム、チウラム、カルベントザールマラソン、クロリピクリン
排除目標農薬	排除に向けて計画的に努力する7農薬	DDVP、キャプタン、ダイアジノン、ペノミル、パラコート、リニユロン、アトラジン

### 産直品のトレーサビリティ

岩手県内の産直農産物について、産地・生産者・栽培方法・農薬使用状況などを、店舗備え付けの専用タッチパネルや、いわて生協のホームページで、また野菜などのラベルの2次元コードを携帯電話に読み込み、知ることができます。

また、アイコープ生かきの生産履歴や、産直豚肉・鶏肉の産地の情報も、いわて生協のホームページで確認することができます。



店舗のタッチパネルで産直品の情報を見ることができます。



携帯電話では、商品ラベルの2次元コードを読みとってアクセス。



## ■ 地域とくらし、食文化も守る「地産地消」

### いわて生協の地産地消の目的

- ① 岩手の食文化を大切に、県民・組合員の願いである健康な食生活を実現する。
- ② 生産者と消費者の距離を縮め、相互の安全・安心を築きあげる。
- ③ 生産体系や生産方法を見直し、農薬や化学肥料の使用をへらす。
- ④ くらしや価値観を見直し、食べることを大切にする。
- ⑤ 生産者・消費者・行政などが連携し、地域を大切にする新しい社会をつくっていく。

### 輸入農畜産物取り扱いの考え方

輸入野菜・くだもの扱いは、品目を制限。国産が不可能なバナナやグレープフルーツ、生産量や生産時期、価格との関係で、国産だけではまかなえないアスパラやブロッコリー、かぼちゃなどに限っています。豚肉・牛肉については、低価格を求める声にこたえて取り扱いしていますが、BSE（牛海綿状脳症）のチェックが不十分と思われるアメリカ・カナダ産の牛肉は取り扱っていません。

### 県産食材の普及を積極的に

地場産品の利用を高めることで、岩手の農林漁業と食の安全・安心を守っていかうと、店舗・共同購入で毎月1回「岩手を食べよう」企画を実施しています。また、組合員の要望から、7店舗に近隣の産直生産者の直売コーナーを設置しています。（08年秋オープンの「ベルフまつぞの」も加えると8店舗になります。）



近隣の産直生産者の直売コーナーを設け、組合員にも生産者にも喜ばれています。

### 行政などとも協力し、地域の農林水産物を普及

2007年度は、地場の生産者や農林漁協、行政などとの協力を強め、各地域の農林水産物およびその加工品について広く紹介、普及をはかる取り組みを実施しました。

企画名	会場	出店者数
一関コルザ地産地消フェスタ	コープ一関コルザ	36団体
みやこまいもの市(3回)	ベルフ仙北	のべ23団体
花北オリザ収穫祭	コープ花北オリザ	5団体



「みやこまいもの市」は、2008年度は毎月開催に。

### 地場産品のよさにふれるツアー

体験を通して地場産品のよさにふれ、地元生産者との交流をはかる産地ツアーを、2007年度は新たに開催。「大船渡浜一番まつりとイクラ作り体験ツアー」には35人が参加し、大船渡の漁家とふれあい、海の幸を堪能しました。こうしたコープトラベルと協力しての産地ツアーを、2008年度も多数企画しています。



カキの殻むきやイクラ作りを体験したツアー。

# 3

## 「コープ手作り餃子中毒事件」をうけて

2008年1月に発生した「コープ手作り餃子中毒事件」は、コープ商品や生協への信頼を大きく後退させてしまいました。2月のコープ懇談会でも多くの意見が寄せられ、こうした声を真摯に受け止め、あらためてコープ商品の品質管理の強化と、地産地消・産直などを大切にした商品政策、農林漁業を守り食料自給率を高める運動などを強化しています。

### 1 中国で製造されている加工食品の取り扱いを、大幅に縮小しました。

- 店舗では、国産品への代替が可能な商品から順次切り替えを行い、5月末までに159品目中142品目を切り替えました。(代替商品がないものについては、取り扱いを継続)
- 共同購入では、4月から取り扱いを中止しました。
- 海外製造加工食品で取り扱いを継続するものは、残留農薬検査を実施します。

### 2 加工食品の原産国などを確認した上でご利用いただけるようにしました。

- 店舗では、冷凍食品とコープ商品に製造工場所在地を表示しました。
- 
- 共同購入「Week」では、5月4週号から食品全品への原産国表示を始めました。
- 
- インターネットや店頭端末で商品の原産国などを検索できるしくみは、6月24日からスタートします。

### 3 これまでも推進してきた産直や地産地消、地場産業・製品の育成、国産品優先の商品政策をあらためて徹底し強化しています。

- 店舗・共同購入での月1回の「岩手を食べよう」企画や、店舗で年4回行う「産直収穫祭」を継続して取り組むほか、地元生産者との「産直コーナー」を展開する店舗を拡大し、さらに普及をはかります。
- 行政や農漁協などとの情報交換を強め、県産品の利用拡大をはかります。
- 地元の生産物のよさを確かめながら利用を広げる取り組みは、ベルフ仙北での「みやこうまいもの市」は毎



月開催に拡大、産直先へのツアーも年間を通して実施します。

### 4 食の安全と農林漁業を守り、食料自給率を上げるための学習や運動を強めています。

- 輸入食品の検査強化と、農林漁業を守り食料自給率向上を求める署名活動を5月からスタートしました。
- 日本の食料事情や農業の実態についての学習会も、各地域で開催していきます。

### 5 商品に関するお申し出に対して、その原因究明や対策を迅速に行えるよう対応マニュアルを改定しました。

### 6 アイコープ商品の工場点検の内容を強化しました。

「コープ手作り餃子」などの回収状況と組合員・県民へのお知らせ  
(回収数は2008年5月末現在)

回収理由	商品名	回収告知方法	回収数
2007年10月20日製造商品で農薬混入による人体被害が出たため、日本生協連が自主回収することにしたため。(いわて生協では当該製造日商品の扱いはない。)	CO-OP手作り餃子 (共同購入/1月28日・29日・30日配達分)	・電話/365人 ・店頭掲示 ・ホームページ掲載	357 ※2月1日回収終了
	CO-OP手作り餃子 (共同購入/過去配達分)	・電話&ハガキ/ 5,833人 ・店頭掲示 ・ホームページ掲載	213
農薬混入による人体被害は出ていないが、天洋食品製造商品であり、日本生協連が自主回収することにしたため。	CO-OP本場中国肉餃子 (共同購入/過去配達分)		8
	CO-OPとろ〜り煮込んだロールキャベツ (共同購入/過去配達分)		16
農薬混入による人体被害は出ていないが、天洋食品製造商品であり、JTフーズが自主回収することにしたため。	JTフーズ豚肉の3色野菜巻き (店舗、共同購入/過去配達分)	・電話/共同購2,460人 ・ハガキ/店舗2,679人 共同購入2,460人 ・店頭掲示 ・ホームページ掲載	123
	JTフーズ2種のソースのロールキャベツ (店舗)		80
	JTフーズミニロールキャベツ (店舗)		2
最終製品化は日本で行われているが、牛肉のボイル加工を天洋食品で一定期間行っていたことから、日本生協連が自主回収することにしたため。	CO-OPビーフカレー 甘口・中辛・辛口 (店舗、共同購入)	・ハガキ/共同購 4,449人 ・店頭掲示 ・ホームページ掲載	6,673



2月に県内41会場で開催した「コープ懇談会」には組合員1,764人が参加しました。各会場に常勤役員が出席し、餃子中毒事件についてのおわびと報告を行いました。



広報誌「HELLOコープ」や店舗セールチラシ、共同購入配布チラシなどでもお知らせしました。

組合員の  
声

2月のコープ懇談会で  
組合員から出された  
主な意見

- ・コープ商品は生協が直接作っているものと思っていたが、間に一般のメーカーが入っていて(製造委託)、外国で作っているものもあると知り、ビックリしました。
- ・今回のことが、日本の食料自給率に目を向けるきっかけになったのはよかった。国内・県内の生産者の生活を守ってあげるように、もっと取り組んでほしいです。
- ・今回の問題で、生協に入っていてよかったと思うのは、対応がよかったことです。ほかのスーパーではレシートがないと返品できませんが、生協は利用データがあって、食べてしまったものについても返金してくれました。これは、生協だからできることです。
- ・コープ懇談会での説明はていねいで、わかりやすかったです。誠意のある対応を続けて、今後の信頼回復につなげてほしいです。

日本生協連による、コープ商品の  
品質管理強化の当面の対策

- ① 輸入品対策として、全ロットでの残留農薬検査などを実施。また、国内品と区別して「輸入商品ガイドライン」を新たに策定し、管理を強化します。中国製造のコープ商品は、すべての生産時に職員を派遣し点検します。また、工場を見直し絞り込みます。
- ② 商品に関するお申し出への対応と、これまで製造委託先に依頼していた原因究明を、日本生協連として行うようにします。
- ③ 検査機能を強化します。弱かった既存品検査を強化し、毎年全品目を検査します。そのために検査人員を70人⇒100人体制に、原因究明のための専門検査担当も配置します。
- ④ 工場点検を強化します。年間540件⇒1000件に。

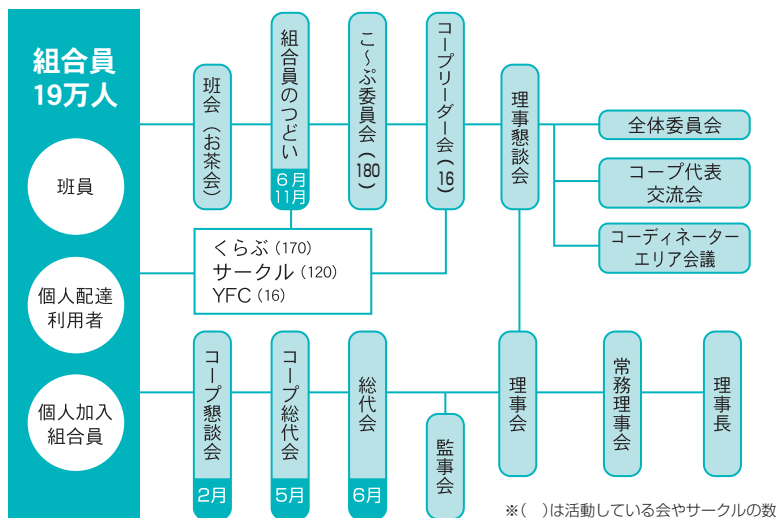


# 4 いわて生協の運営

## 組合員一人ひとりが運営に参加、計画づくりもみんなで

生協（生活協同組合）は、一人では力の弱い私たち生活者が、力をあわせて「よりよい暮らしを実現しよう」とつくっている組織です。そのために、事業のもとでとなるお金「出資金」を組合員みんなで出し合い、要望にもとづいた事業をみんなで「利用」し、話し合いや活動に参加したり、意見を出すことにより、みんなで「運営」しています。

組合員は出資金を出して事業を利用するだけでなく、運営に関わることも大切にし、さまざまな運営参加の場や機会を設けています。



### 2008年度計画が決まるまで

**2月 コープ懇談会**  
県内各地41会場に1,764人が参加



全会場に常勤役員が参加し説明。出された意見を検討し、いわて生協全体や各コープ（地域）の計画に反映。

**5月 コープ総代会**  
16会場に1,800人が参加



「総代会」の事前討議の場として、また各コープの計画を決定する場として開催。出された意見は検討し、総代会の討議に反映。

**6月 総代会**  
組合員の代表である総代500人が参加

1年に一度開催する、生協の最高議決機関。いわて生協の事業計画とその執行にあたる理事・監事（任期2年）を決定。

## 地域に根ざした生協をめざし、16地域（コープ）で運営



- にのへコープ
- 北上コープ
- 岩手郡コープ
- 水沢コープ
- 盛岡西コープ
- 一関コープ
- 盛岡北コープ
- 久慈コープ
- 盛岡中央コープ
- 宮古コープ
- 盛岡南コープ
- 釜石コープ
- 盛南コープ
- けせんコープ
- 花巻コープ
- 東いわいコープ

広い県土を持つ岩手県は地域によって文化や経済も違い、組合員のみなさんのくらしや願いも違います。そこで、地域ごとに組合員の声を大切にし、その地域性をいかし地域に根ざした活動をすすめていこうと、県内をいくつかの地域（現在は16コープ）にわけ、地域ごとに自主的・主体的な運営をすすめています。

## 地域の運営・活動の中心「コープリーダー会」

県内16の地域（コープ）の運営・活動を中心になってすすめているのが、地域ごとのコープリーダー会。各こ～ぶ委員会から代表が集まり、組合員のくらしや地域の願い・思いを持ち寄り、その願いを実現していこうと運営や活動をすすめています。毎月1回開催のコープリーダー会では、お店や共同購入の利用・経営状況の報告を受けて意見を出し合ったり、くらしや地域をよくしていくために、地域（コープ）としてできることを決めて取り組んでいます。コープ総代会や組合員のつどいなどの運営、また「生協まつり」やコープ商品の試食会、産直交流会などを「みんなで・楽しく・工夫して」多彩に行っています。



コープ商品の試食会や「生協まつり」などを企画・開催。

## 1,000人のこ～ぶ委員さんが、毎月楽しく集まる「こ～ぶ委員会」

県内16の地域（コープ）には、小学校単位ごとに180のこ～ぶ委員会が作られ、1,000人のこ～ぶ委員さんが活動しています。3～10人の委員さんが毎月集まり、コープ商品を囲んで生協やくらしのことなどをわいわい楽しく話合っています。また、コープリーダー会からの提案をもとに「組合員のつどい」を主催するほか、産地見学会やお菓子づくりなど、地域の組合員の要望にもとづいた企画も実施。こうした中で、世代を超えたおつきあひも広がっています。



コープ商品と市販品を食べ比べて学習。「新しい発見があったって楽しい！」とこ～ぶ委員のみなさん。

## 年2回、くらしの話題や商品の学習・試食などを楽しく「組合員のつどい」

民主的な運営の中心として、最も多くの組合員が参加する集まりが「組合員のつどい」。各コープリーダー会・こ～ぶ委員会の主催で、年2回（6月・11月）開催し、1回7,000人も以上の組合員が参加しています。生協のことだけでなく、くらしや地域の問題についても、学習や話し合いをしたり、商品の食べ比べや学習・レシピ紹介なども各委員会で工夫して行い、参加者から毎回好評です。08年度は、食の安全・安心やコープ商品をテーマに開催の予定です。



組合員のつどいで、「産直の肉はやっぱり安心ね！」と確かめあいました。

## ご近所で集まってわいわい話し合い「班会」

班はいっしょに共同購入を利用するだけでなく、「生協の民主的な運営の基礎組織」。「隣近所や地域での交流・助け合いの場」として大切であり、ぜひ年2回（組合員のつどいに合わせて開催）の班会を機会に集まりましょうと、呼びかけています。08年度は、名称を「お茶会」に変え、個配利用の方にも開催を広げていきます。

# 5

## 世界の子どもたちに笑顔と明るい未来を「ユニセフ活動」

「わが子への愛を世界の子どもたちに」というお母さんの願いをもとに、いわて生協では1990年の創立以来、ユニセフの活動に取り組んでいます。

### 募金は18年間で8,000万円にも！

店舗・共同購入での「ファミリー募金」、県内40か所以上でのボランティアによる「ハンド・イン・ハンド募金」（12月）などを通し、2007年度は398万円を超える募金が寄せられました。

また、北海道・東北の生協がいっしょに2005年度から取り組んでいるのが、「ネパール指定募金」。ファミリー募金のうち180万円が、ネパールの子どものために使われています。

### 2007年度いわて生協に寄せられたユニセフ募金

ファミリー募金（店舗募金箱や共同購入での募金）	243万3,461円
ハンド・イン・ハンド（12月）	708,151円
お年玉募金（1月）	434,478円
書き損じ・未使用ハガキ回収（1月）	160,212円
カレンダー募金（2月）	93,802円
バングラデシュ・サイクロン緊急募金	152,377円
2007年度 合計	398万2,481円
累計（1990～2007年度）	8,000万8,027円

#### ユニセフ 出前講座

#### ユニセフのこと、世界の子どもたちのことを知らせたい



ユニセフ委員（組合員）が学校や学童保育クラブでの学習会の講師として出向き、ユニセフの活動や世界の子どもたちの状況をお知らせする活動も。ゲームやクイズ、水がめでの水汲み体験、地雷レプリカやマラリア防止用の蚊帳などを使ってわかりやすく説明しています。

#### ハンド・イン・ハンド

#### 世界の子どもたちのために、募金をお願いします！

12月に全国一斉に行う街頭募金に、2007年はいわて生協だけで36会場・総勢606人のボランティアが参加。そのうち高校生以下は406人で、元気な声で呼びかけました。



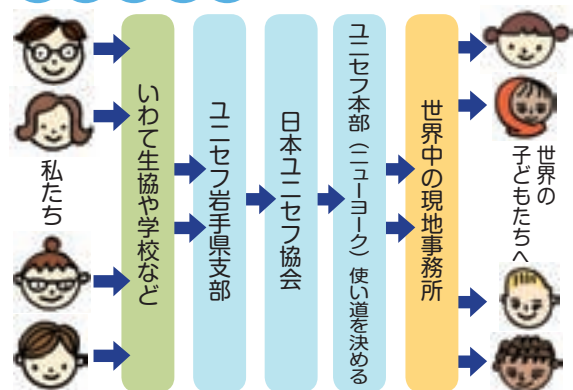
#### クリスマス フェスタ

#### 遊びながらユニセフの活動がわかるといいね

2007年12月にはクリスマスフェスタを開催。国際交流協会の招きで来県中のシンガポールの中学生バンドも参加し、国際色豊かでした。ユニセフ委員会のみなさんが半年がかりでつくった「ユニセフすごろく」も好評でした。



#### 募金の流れ





# 6

## 地域に助け合いの輪を広げる「福祉活動」

「誰もが住みなれた地域で安心してくらししていけるまちづくり」をめざして、幅広い福祉活動を組合員自身がすすめています。

### コープくらしの助け合いの会

「困ったときはお互いさま」の気持ちを出発点に、1992年に発足。会員制の有償ボランティアで、高齢者や体の不自由な方、産前産後の方への家事・生活援助(掃除や家の中の片付け、洗濯、食事づくり、話し相手など)、託児や乳幼児の世話などをおこなっています。現在、盛岡・花巻・北上・奥州・一関・宮古・釜石・けせんで活動し、会員数は1,197人。2007年度の活動は、のべ11,205回25,545時間(前年比107%)でした。

活動会員	376人
利用会員	636人
賛助会員	185人
合計	1,197人

※いわて生協の組合員ならどなたでも入会でき、会員の種類の変更や退会はいつでもできます。

### くらしいきいき応援隊

「くらしいきいき応援隊」は、働く人が資本と労働力を持ち寄り、みんなで運営していく「ワーカーズ・コープ(働く人の協同組合)」。いわて生協が支援し、2007年7月に盛岡地域で立ちあげました。「自分のできるところで役に立ちたい」「定年後もまだまだ元気に働きたい」といった方が参加し、「コープくらしの助け合いの会」では対応しにくい要望(高齢や産前産後などではないが、手助けがほしい方など)に応えています。発足したばかりですが、2007年度は67人が2,000時間をこえる応援を行い、順調に活動を広げています。



ワーカーズコープでは男性もいきいきと活動。庭木の剪定や植木の移植、畑や花壇づくり、家具の移動、通院介助、犬の散歩などを応援。

### ふれあいお茶っこ会

同じ地域にくらす人々みんなで支えあって生きていこうと、盛岡医療生協といっしょにミニデイサービス「ふれあいお茶っこ会」を1999年から取り組んでいます。2007年度は、盛岡市内10か所で86回開催、1,623人の高齢者やボランティアが参加しました。



レクリエーションや昼食会などで楽しいひとときを過ごしています。

### 福祉まつり

福祉作業所のみなさんと組合員・地域の方々との交流・協力を目的に、「福祉まつり」や「福祉作業所支援バザー」「作業所作品即売会」を開催。盛岡・北上・水沢・一関・宮古・けせんなどで開催し、2007年度は36施設に参加いただきました。



福祉まつりでは、福祉作業所のみなさんといっしょに販売や展示、体験などに取り組みます。

### 共同購入チラシを音声で案内

目が不自由な方のために、共同購入チラシ「Week」の商品名や規格、価格、注文番号を読み上げて録音し案内する「リーディングテープ」。現在39人の方にご利用いただき、喜ばれています。

# 7 暮らし・平和を守る活動

## ■ みんなの力を合わせて要求を実現！

「一人ではできないけれど、みんなの力を合わせればできることがある」と、暮らしを守る運動を幅広くすすめています。定率減税の廃止による増税に加え、第2次オイルショックを超える灯油・石油製品の高騰がくらしや地域を直撃する中で、灯油の異常高騰にブレーキをかける運動や、後期高齢者医療制度の凍結・見直しを求める運動などを、多くの組合員や団体と協力してすすめました。

### ねばりつよく取り組んで「福祉灯油」を実現

2007年は灯油が異常高騰する中で、国や石油元売会社、県選出国會議員、岩手県議会へ何度も要請行動を実施し、組合員の切実な声を訴えました。また、高齢者や生活弱者への「福祉灯油」も国や県に要望、県内全市町村での実施を実現しました。



灯油委員会では、配達灯油の還元を決定することができました。



07年12月に岩手県議会に提出した「緊急対策を求める請願」が採択され、岩手県から国に、福祉灯油の実施と有効な緊急対策実施の意見書が提出されました。

### 「岩手県でのBSE全頭検査継続」を実現

「BSE検査への国の補助が08年7月に打ち切られても、岩手県として全頭検査は継続して」。県内の消費団体と一緒に要請や街頭宣伝に取り組み、岩手県は継続を決定しました。



全頭検査継続とアメリカ産牛肉の輸入緩和を行わないことを、県議会へ要請。



世論を盛り上げるため、県内の団体といっしょに街頭での宣伝も取り組みました。

### 「わたしのひと声」を携え国会要請

税金や社会保障費の負担が増える中、「くらしが大変」「これ以上の負担や福祉切りすてはやめて」「税金の使い方を見直して」など、組合員の声3,500通を集めました。この声を携え、組合員から募った「国会にいったみ隊」が、国会要請を行いました。



「後期高齢者医療制度」の見直し・凍結を求め、岩手県議会議長へ要望書を提出。



「国会へ行ってみ隊」の組合員7人が、県内の団体の参加者と一緒、国会要請を行いました。



## ■ 「戦争」「平和」について、知り・学び・考えあい・行動

「私たちが願うよりよいくらしも、平和があつてこそ」と、さまざまな草の根の活動に取り組んでいます。

毎年8月には、組合員から募ったカンパで「ピースアクションinヒロシマ」へ代表を派遣。これまでに200人以上が原爆投下の地で貴重な体験をし、それを地域の組合員へ広げています。

終戦50年にあたる1995年には、いわて生協を中心に2万人を超える県民の募金で、平和の願いの象徴として平和祈念像「望み」を建立。以後、この像を囲んでの「平和のつどい」を、毎年開催しています。

2007年は特に、憲法制定の真実を多くの方に知ってもらおうと映画「日本の青空」上映に取り組み、16市町村で6,300人が鑑賞しました。そのほか、コンサートや講演会などが多彩に取り組みられました。平和について組合員が自主的に考え学びあえる「いわてピースキャンパス」には、現在63人が参加しています。



2007年は132万円のカンパで12名の代表をヒロシマに派遣。



映画「日本の青空」は、2008年も希望地域で上映。



盛岡の「高松の池」ほとりに建てられた「望み」。毎年8月9日には、この像を囲んで「平和のつどい」を開催しています。



ピースキャンパス主催「松元ヒロライブ〜コントで学ぼう憲法9条」は、150人の参加で大好評。



ナガサキの被爆者の詩や、宮沢賢治の童話を朗読した、林隆三さんのコンサート。



「世界の平和を願う岩手県民のつどい」は、毎年3月に開催。つどいの後には、ピースパレードで思い思いの平和をアピール。

## ■ 食の安全は、日本の農林漁業を守り発展させることから

いわて生協をはじめ消費者団体や県農民連、県商工団体連絡会など14団体や個人といっしょに2008年3月、「いわて食・農・地域を守る県民運動ネットワーク」を設立しました。

会員団体、個人を増やしながら、地産地消・食農教育、消費者と生産者の連帯をすすめ、食の安全・安心の確保や食料自給率の向上をめざします。



設立総会には80人が参加。食料・農業を守り発展させる運動をしていくことを確認。



子どもたちのために、またお母さんやお父さんの子育てを応援するために、こんなことができたらいいな…という思いを協同の力で一つひとつ実現し、広げています。

## ママのリラックスタイム

乳幼児をもつママたちが、子どもと一緒にホッとリラックスしてすごせる「親子の遊び場」。事前の申し込みは不要、時間内はいつ来ても・いつ帰ってもOKという気軽さが人気です。7店舗の集会室で、毎月1～2回開催。2007年度は514組1,141人の親子が参加しました。

会場(店舗の集会室) コープ緑が丘・ベルフ仙北・ベルフ山岸・ベルフ青山・  
コープ花北ORYZA・コープアテルイ・コープ関COLZA



ママどうしが、子育ての悩みや情報をおしゃべりできる場として、好評です。

## YFC (ヤングファミリーサークル)

就学前の乳幼児をもつ組合員5人以上で結成できる「子育てサークル」。いわて生協が、活動費などを支援。2007年度は16サークル150組の親子が登録、店舗の集会室等を会場に親子で遊んだり、交流しました。



## コープ子どもと教育110番

子育てや教育で困った時は、「コープ子どもと教育110番」へ。ベテランの先生が電話と手紙で相談を受けています。電話相談は毎週月曜日9時～12時、水・金曜日13～16時。 ☎019-643-1158

## 子育てキャンペーン

コープ子育てキャンペーンは10～11月に実施。子育て応援ガイド「ララ★キッズ」を含む「子育て応援プレゼント」の無料配布や、子育てトークの開催などが好評でした。



マンガ家の高野優さんの講演会(子育てトーク)を開催。約120人の参加者に、笑顔と元気を与えました。

## コープスクール

“なぜそうなるのか”を大切に学習する学習教室。「学ぶ喜び」「わかる楽しさ」を子どもたちに知ってほしいと1992年にスタートしました。先生は教員資格のある組合員で、生協の施設を会場に週1回90分、少人数指導でいねいに教えます。現在15教室で32人の小中学生が学んでいます。

## ポラン農業小学校

時代を担う子どもたちに食べ物の大切さ・つくることのすばらしさを感じとってほしいと、JA西和賀(現在はJAいわて花巻)といっしょに1999年に開校。退職した先生方や地域の方の協力も得て取り組んでいます。毎年40～50人の小学生が、西和賀の豊かな自然へ月2回、1年間を通じて登校。学校運営にも主体的に関わり、「生きる力」を育んでいます。



# 9

## 自治体や地域の団体・住民とともに すすめる地域づくり

### 行政と懇談し、すみよい地域をともに考えあって

すみよい地域づくりをめざして、各コープの主催で、市町村の首長との懇談会を毎年開催しています。2007年度は9コープが主催し、初めての軽米町・住田町をはじめ、盛岡市・奥州市・花巻市・八幡平市・久慈市・宮古市・釜石市・大船渡市・陸前高田市・大槌町・滝沢村の13市町村で実施。「子育て支援」をメインテーマに、福祉灯油や医療の充実などを話題に懇談しました。また、岩手県生協連主催の「県知事との懇談会」にも参加しています。



大槌町町長との懇談。

### 災害時も地域と連携・協力

地域に密着した事業・活動をすすめる生協は、災害時においても、地域との連携・協力をはかります。2008年1月に、一関市との協定をほかの3事業所とともに結びました。また、いわて生協が加盟する岩手県生協連は、1996年に岩手県と災害時協定を締結。2004年の新潟県中越地震の際には、岩手県生協連から要請を受けて、おにぎりや携帯トイレを提供したほか、炊き出し支援も行いました。



新潟県中越地震の際には、岩手県を通じて新潟県に救援物資を送りました。

### 「NPO法人もりおか配食サービス」を支援

「もりおか配食サービス」は、一人暮らしのお年寄りなど、食事づくりが大変な方に食事を配達するサービスを行うNPO法人です。いわて生協の安心できる食材を使い、一日平均200食を15人のスタッフが用意し、55人のボランティアが配達しています。1999年の発足以来、いわて生協は、施設づくりや配達の中継地（店舗）などで活動を応援。配達ボランティアには生協常勤者も参加しています。



食材を吟味し、心を込めて一食ずつ作っています。

### 地域の団体や住民といっしょにお祭りも

毎年7月に、いわて生協のお店で開催する「納涼祭」は、町内や地域の催し物が少なくなった中で、地域のみなさんの交流の場としての役割を持つようになってきています。2007年度は10店舗で開催し、9,700人以上の参加がありました。また、地域の商店街やショッピングセンター内店舗といっしょのお祭りを開催している店舗もあります。

盛岡さんさ踊りには毎年、組合員中心に総勢約300人が参加。2007年度は、例年を上回る380人が参加し、「さんさ踊り30周年」に花を添えました。宮古秋祭りは、組合員さんと常勤者が手踊りと山車のパレードに毎年参加しています。



盛岡さんさ踊りには毎年参加し、祭りを盛り上げます。



# 10 いわて生協の事業活動(1) 店舗・共同購入

## 店舗 県内に13店舗を展開

### 生鮮強化で高評価を得られる店舗を追求

組合員の毎日の暮らしを支えるため、生鮮品の品揃えと品質で地域一番をめざす大型店や、学生のニーズにも合った便利な小型店など、13店舗を展開しています。2007年度は、組合員の要望にこたえ「9時開店」への変更や、地域の動向に対応して3店舗で元旦営業も行いました。



地域一番店をめざすマリノアコープドラ（宮古市）



せり市やじゃんけん大会で、楽しいお買い物場の場を提供。

### 「組合員の声」4,600件以上を集約

組合員から「言われたこと」「聞かれたこと」に対し具体的な改善にとり組み、品揃えや売り場づくり、サービスや仕事のしぐみに生かす活動もスタートしました。2007年度1年間（7月～3月）で4,620件の「声」が集約され、記録・報告・共有されました。



組合員の声にこたえて、「HELLOコープ」掲載の料理レシピを店舗にも配置。

### 店舗の利用還元は2億7千万円以上に

組合員カードのポイントサービスによる割り戻しは、2007年度は、1億4,640万円にのびりました。また、毎月1日の「消費税負担実感デー5%値引き」と15日の「家計応援5%引き」による還元は1億2,917万円となり、合計2億7,557万円を組合員に還元しました。



毎月15日の「家計応援5%引き」はたくさんさんの組合員が利用。

### くらしの情報発信と交流

地産地消を進める「岩手を食べよう」企画や産直運動の推進、県内産の原材料にこだわったアイコープ商品の普及の場としても、店舗は大きな役割を果たしています。また、今年12年目となる「消費税負担実感デー」では消費税負担増に反対するメッセージを発信続けてきました。小中高生の社会科見学、体験学習も積極的に受け入れています。

店舗のホールや和室では、組合員のサークル（105サークル 1,037人）や「くらぶ」の活動、地域住民の催しが活発に行われています。



コープ関コルザで中学生が体験学習。カット野菜の包装や商品補充にチャレンジしました。



ベルフ青山のホールで活動している「Let's Speak」くらぶ。



## 共同購入 配達される便利なしくみで暮らしを支えます

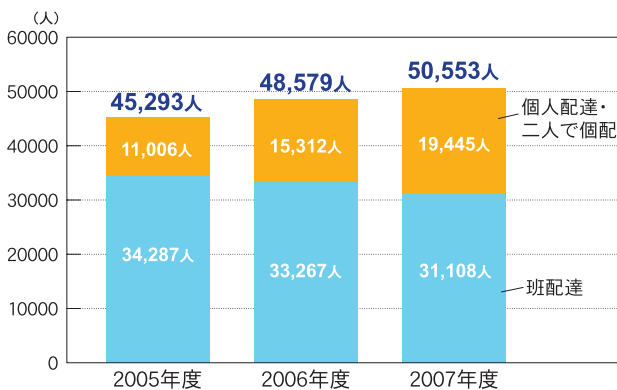
### 6千人が利用している「個人配達優遇制度」

共同購入は、毎週発行のカタログを見て注文した商品が配達される、便利なしくみ。県内8か所（8支部）を拠点に、毎週約5万人の組合員に安全・安心の商品をお届けしています。

配達方法は「個人配達」「二人で個配」「班配達」の3つで、ここ数年は「個人配達」「二人で個配」の利用者数が増えています。また、配達料金の優遇制度は、赤ちゃんがいたり高齢などのために思うようにお買い物ができない方々に、とても喜ばれています。

2007年度は、班員3,249人、個人配達（二人で個配含む）10,410人、計13,659人と過去最高人数の仲間を迎えました。

#### 利用者数（各年度末）



3人以上の「班」では配達料金はかかりません。



「個人配達」は、赤ちゃんがいるなどお買い物が大変な方に喜ばれています。

優遇対象者（配達料金が1回100円に）	利用人数	割合
母子手帳が発行されてから、満3歳の誕生日までのお子さんがある方	2,032人	10.4%
70歳以上で単身、または夫婦世帯で一方が70歳以上	2,608人	13.4%
障がい者手帳をお持ちの方がいるご家庭	1,382人	7.1%
計	6,022人	31.0%

### 配達灯油は2,700万円の還元を実現

岩手の冬の暖房エネルギーとして欠かせない灯油の配達事業も展開し、利用登録者数は46,485人。2007年度は、かつてない原油価格高騰が続く中、10～12月度は安い決定価格、1～3月度は暫定価格で配達。市況の値上げを抑制し、適正価格をつくるプライスリーダーとしての役割を果たしました。1～3月度分は春に価格決定し、1ℓ当たり1.5円（18ℓ1缶で27円）、総額2,724万円を還元。冬場通して県平均を下回る価格を実現し、組合員の家計に貢献しました。

### 朝配達牛乳は「軽量びん」に切り替え

岩手県内での生協運動の出発点は「みんなでまとまって牛乳を安く飲もう」。牛乳配達事業は35年の歴史があり、利用人数は現在15,634人です。

2007年度は、びん容器を軽くて持ちやすい「軽量びん」に切り替え、組合員の長年の要望が実現しました。



## ■ 全国の組合員どうしの助け合いで広がる「共済事業」

生協の共済は、組合員どうしの助け合いの精神でくらしの保障を築いてきました。いわて生協の共済契約件数は年々増加し2008年3月で78,464件になりました。しっかりした医療保障の《たすけあい》、生命保障に入院特約・がん特約が付帯できる《あいづらす》を中心に、くらしの安心を経済的にカバーする制度として広がっています。

### ●多くの組合員に共済金をお支払いしました。

請求手続きが組合員（加入者）の立場で簡単・スピーディーになっている点も評価されています。2007年度は9,842件、総額5億4,888万円の共済金をお支払いしました。

### ●加入者が増えることで、商品の改善がすすみます。

毎年重ねてきている保障内容の改善。2007年度の改善で《たすけあい》《あいづらす》とも、病気もケガも入院1日目からの保障にそろいました。保障のコープ商品として、くらしのニーズにこたえる改善を、みんなの加入の力でさらにすすめていきます。

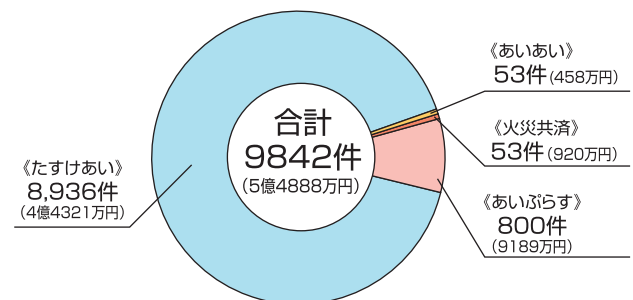


保障の相談会を店舗などで行っています。

### 共済加入件数 (2007年度)

種類	加入件数	純増	保有件数
たすけあい	7,858件	3,136件	59,451件
あいづらす	3,720件	3,075件	13,960件
火災共済	395件	269件	4,346件
新あいあい	113件	113件	113件
あいあい	0件	△107件	594件
合計	12,126件	6,486件	78,464件

### 共済金の支払件数 (2007年度)



## ■ 介護・福祉センター“あい”を中心に広がりきずく「介護・福祉事業」

「住みなれた地域で安心してくらしできるように」との願いから介護・福祉センターがスタートして3年。「介護・福祉相談窓口」と「介護保険サービス」（盛岡市と滝沢村）を行っており、毎月200人以上の利用へ増加してきました。2007年12月には、訪問介護で月1000時間のサービスを提供できました。

「あい委員会」を通して、「コープくらしの助け合いの会」や「くらしイキイキ応援隊」、「ユニバーサル福祉委員会」などとの交流がすすみ、運動と事業のネットワークが育まれています。

### 2007年度の利用状況

事業	利用者
居宅介護支援（ケアプラン）	2,057人
訪問介護	701人
福祉用具貸与	475人

### 「地域の介護・福祉の相談場所」をめざして

2007年度は、地域の福祉推進協議会への情報提供や、在宅介護支援センターとの提携、病院との退院時期調整など活動内容も広がってきました。「あい」が持つ介護・福祉サービスの役割と地域のニーズを結びつけて、「地域の介護・福祉の相談場所」の役割をめざしています。



介護・福祉センターでは介護用品の展示・販売も行っていきます。

## 人生の最期に真心をこめて「セリオ葬」

いわて生協の葬祭事業は、「人生最後の儀式だから心をこめて」「納得できる適正な価格で」という声に応じて1993年にスタート。その後、「自宅に代わって通夜・葬儀ができる施設を」との声で、葬祭会館「セリオホール」を盛岡市内に2館オープンしました。

事業展開地域は、盛岡市とその周辺市町村のほか、全農岩手県本部との事業提携により2007年3月からは花巻市、2008年3月からは北上市にも広がりました。



セリオホールみたけの「つばきホール」。

### 2007年度の利用状況

セリオホール 中野	通夜 葬儀	162件
セリオホール みたけ	通夜 葬儀	209件
自宅施行		98件
合 計		469件

## 環境配慮の葬儀めざして「エコ棺」を導入

環境配慮の取り組みとして、印刷物への再生紙使用などを進めてきましたが、2007年度は新たに「紙製棺（エコ棺）」を導入。これまでに54件（2007年11月～2008年4月）の利用がありました。



### エコ棺（トライウォール社のエコフィン「ノア」）の特長

- 棺の素材は、バージンパルプで作られた特殊三層構造ダンボール。
- 従来の合板製棺の3分の2の森林資源で作ることができます。火葬に要するエネルギーが従来の約半分に低減され、排出されるCO<sub>2</sub>が約半分に低減されます。
- 棺1本につき、植林10本（モンゴル火災跡地へ）の寄付がついています。またセリオ独自で年間500本の植林寄付を行います。
- 仕入れ価格は割高ですが、供給価格は合板製棺と同等に設定しています。

## 貴重な県民の財産を維持・公開 保存庭園・建物「南昌荘」

明治18年頃、盛岡出身の実業家瀬川安五郎の邸宅として建てられた「南昌荘」。現在に残る数少ない明治の邸宅・名園として、盛岡市「保存建造物」「保存庭園」に指定されています。

いわて生協は組合員・県民の共有財産としてこの南昌荘を保有し、創立10周年（2000年）を機に公開をスタートしました。以来、多くの市民のみなさんや岩手を訪れる方々の安らぎの空間として、また多彩な催しの会場として活用され、入園者は公開8年で14万人を超えました。2007年度の入園者は18,365人でした。



- 休 館 日／月・火曜日 年末年始
- 開館時間／10～17時（12～3月は16時）
- 入 場 料／大人200円、小・中学生100円

## 関連会社の状況

区分	子会社	関連会社
会社名	株式会社共働社	株式会社コープトラベル東北
いわて生協の出資比率	100%	13.5%
事業内容	損害保険の代理業務・生命保険の募集関連業務・酒類小売業とこれらに付帯関連する一切の業務	一般旅行業務並びにプレイガイド業、損害保険代理業、レンタカー斡旋並びに旅行用品レンタル事業



## 生協法の改正を契機にガバナンスの強化をすすめます

組合員の自主的な活動や運営参加を重視する民主的な活動や運営を重視する民主的な運営を強化するとともに、60年ぶりに改正になった生協法の抜本的・総合的改定に対応して、ガバナンスの強化をすすめます。

〈生協改正（2008年4月施行）の主な内容〉

■生協の活動範囲の「県域規制」が緩和され、隣の県まで広がる可能性があります。

■組合員以外の利用の規制が緩和され、災害時や医療・福祉事業、保育園などへの食材提供が可能に。

■共済事業を安心して利用できるように、運用や経営の健全性のルールが充実に。

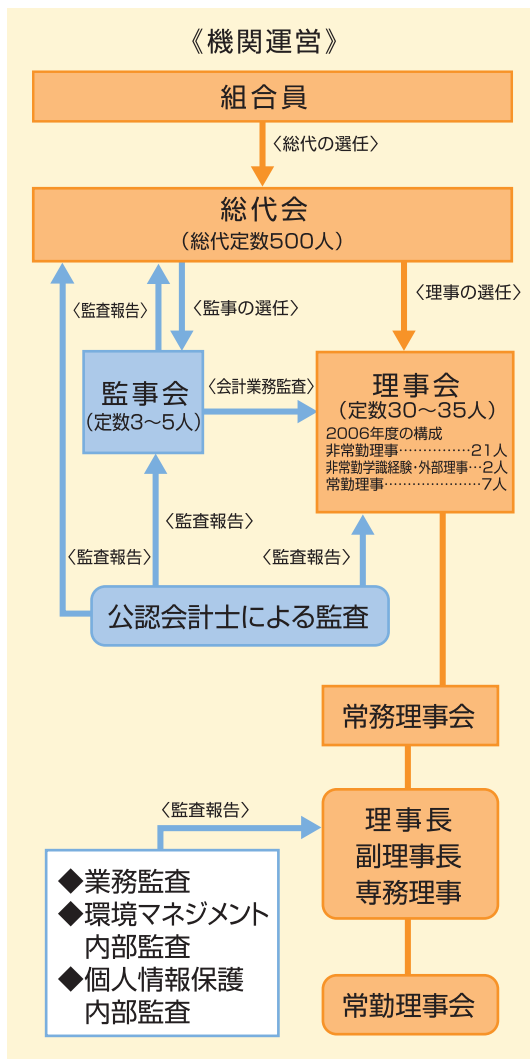
■機関運営の規定が見直され、機動的な事業運営とガバナンスの強化に。

○理事会の権限の強化・明確に

○監事の権限と独立性が強化に

○理事・監事の責任が明確に

○情報開示制度、組合員の直接請求権等の拡大に



### 外部による監査・指導

#### ■公認会計士

公認会計士2名と契約し、会計処理・財務報告の適正化と監査を受けています。

#### ■環境審査

ISO14001の第三者認証機関、日本環境認証機構（JACO）による審査を受けています。

#### ■岩手県による指導検査

消費生活協同組合法第94条により、定期的に業務および会計の状況に関する指導検査を受けています。

### 内部監査機能

#### ■業務監査

方針がどこまで浸透し実践されているのか、決めたことが実施されているかどうかの実態を把握するため、2006年度より専務理事直轄の業務監査室を設置。店舗の業務監査（総合監査、テーマ監査）から着手しました。把握された問題については、本部の役割機能の見直しも含めて、順次改善を実施しています。2007年度は、監査担当者を増員し、業務支援監査を共同購入にも拡大しました。

#### ■環境マネジメント内部監査

全事業所（52）を対象に、毎年2月に実施。不備な点については、是正指示により、要因、当面の緩和措置、対策、予防措置を明確にし、期限を決めて改善しています。2007年度は、54件の是正を実施。内部監査の結果は理事長に報告し、次年度の見直しをおこないます。

#### ■個人情報保護内部監査

対象全事業所（44）について毎年5月に実施。不備な点については是正指示を行い、期限を決めて改善しています。2007年度は、124件の是正を実施しました。内部監査の結果は理事長に報告し、次年度の見直しをおこないます。

#### ●内部通報制度

常勤者が法令遵守に関する相談や通報を直接行える制度を2006年度から導入しました。

直通電話：コンプライアンス担当部署の経営企画室

#### ●職場110番

常勤者がおもに職場の悩みや職場環境、労働条件について、直接相談したり通報できるしくみをつくっています。

直通電話：総務部

# 12 働きやすい職場をつくるために

## 健康で安全に働くことのできる職場をめざして

使用者の安全配慮義務（労働状況を把握し、労働者が健康を害さないように配慮する義務）が社会的責任として注目されています。

いわて生協は「労働安全衛生委員会」を全体では年4回、事業所は定期開催し、労働安全衛生法を順守し、事故につながりかねない設備や教育の不備をなくす努力をしています。また2007年度は、全所属員を対象に安全配慮義務についてのDVD視聴学習を行うなど、安全配慮の内容を周知する活動を強めました。



2007年10月には、本部改革時の取り組みが評価され、「快適職場推進賞」を受賞しました。

## 働きやすい職場をめざす制度の拡充と活用

### 育児休業制度 男性も取得

2007年度は、女性の場合、対象の正規常勤者2人・パート常勤者10人全員が希望し、取得しました。

また、男性常勤者では、初めての取得者が生まれました。少子化の進展を背景に男性も育児参加できる社会や企業の取り組みが注目されており、男女共同参画を進める上で新たな一歩になりました。



#### 障がい者の雇用

いわて生協の法定雇用人数は17人ですが、実雇用人数は22人と、法の要求基準を超える雇用をしています。

#### 介護休業制度の利用

2005年度に2人が取得しました。現在の取得者はありません。

#### 定年後の再雇用制度

2007年度は、正規常勤者、パート常勤者27人の希望者全員の再雇用を行いました。

### エクセレントパート制度

パート常勤者の持っている力をより発揮してもらうために、2003年度下期から「エクセレントパート制度」がスタート。2007年度末には、店舗を中心に46人がエクセレントパートに登用されました。2008年度は共同購入事業部へも拡大し、4月に7人が登用されています。

### 正規常勤者への登用制度

パート常勤者・アルバイト常勤者から、正規常勤者に登用する「登用制度」を2006年度から開始。2007年度は、12人の応募の中から7人を登用しました。

35歳までは応募できますので、若いパート常勤者・アルバイト常勤者の働く励みになっています。

### 職場労理協議会

いわて生協全体の労理協議会のほか、店舗、共同購入事業部では職場単位で「職場労理協議会」を毎月開催し、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

#### いわて生協常勤者のデータ（2008年3月20日現在）

	男性	女性	計
常勤役員	5人	2人	7人
正規常勤者	272人	54人	326人
幹部（室長職以上）	43人	4人	47人
平均年齢	41歳	37歳	40歳
平均勤続年数	17年	15年	17年
パート・アルバイト常勤者	273人	1,317人	1,590人